

救い主を尋ねて

2024年12月22日
降誕節

マタイ 2・1～12

序：I. 救い主イエス・キリストのお生まれに係わった人々

(1) 処女 マリア

婚約者ヨセフ

二人はナザレ在住、法的には夫と妻
まだ実際に夫婦とはなっていなかった

二人とも別々に主の使いによって受胎を告知される
不倫によるものでなく、聖霊による
男の子が生まれる、名をイエスとつけよ
ご自分の民を罪から救い出してくださるメシア

二人とも御使いの言うとおりに、信じて従った

(2) 親類のエリサベツ

夫ザカリヤは御使いの言うことを信じなかった
子バプテスマのヨハネの誕生まで口がきけなくなかった

妻エリサベツは高齢・不妊の身を顧みてくださった神に
信頼し、感謝した

エリサベツはまだ母マリアの胎におられたイエスを救い主
・主と信じた
マリアの声を聞いて聖霊に満たされた
胎の子バプテスマのヨハネも喜び踊った

II. ご降誕後、救い主イエス・キリストにお目にかかった人々

(1) ベツレヘムの羊飼いたち

自分の仕事に従事している最中に
突然、よきおとずれ（救い主誕生のニュース）に接する
彼らは天の軍勢の合唱、賛美を聞き
救い主のしるしが、布にくるまって、飼葉桶に寝かされている男の赤ちゃん
と聞いて、すぐに出かけた 彼らは赤子のイエスを捜し当てた
マリアとヨセフに、この幼子について、自分たちに告げられたことを語る
彼らは、神をあがめ、賛美しながら、羊たちの待つ野原へ帰って行った

(2) シメオンとアンナ

エルサレムの神殿にいた
幼子イエスが割礼を施される日に、両親によって連れてこられた時に会った
二人とも高齢、敬虔に神の救いを待ち望んでいた
イスラエルの慰められること
エルサレムの贖い

聖霊の約束、聖霊の導き
シメオンは、この幼子について両親に語り、祝福した
将来受ける苦難も預言

これらの人々は皆、イスラエル人（アブラハムの子孫、ダビデの子孫）
救い主が来られることは知らされていた
信仰によって、神の約束の成就を待ち望み、救い主に直接会う

遠くまで、捜しには行かなかった（近くに来られた）
待っているところに救い主が来てくださった

WISE MEN STILL SEEK HIM （ダビデ・マーチン師の説教）を思い起こしつつ

Ⅲ. 東方の博士たち

彼らは異邦人

知識人（賢者）、占星術師、天文学者

富裕層

(1) 彼らは求めた（探求）

ユダヤ人の王としてお生まれになった方（人ではなく神）
星をたよりに ∴ 拝む

(2) 遠い国からはるばる尋ねて来た

時間、財、安全など犠牲を払い、リスクを負って

(3) 途中妨げや試練があってもくじけなかった

ヘロデ王の猜疑心（博士たちは、当然新しい王は王宮で生まれると推察）

王位を奪われる恐怖心 ⇒ 新しい王の殺害計画

キリストがベツレヘムで生まれる預言を確認

生まれた時（星の出現を博士たちに聞いて）を推測

博士たちをだまして、幼子の居場所を報告させようとした

(4) 目的地ベツレヘムの幼子と両親の入る場所に到達

東方で見た星が終始先導

彼らの喜びはクライマックス

(5) キリスト（幼子イエス）を礼拝、贈り物をささげる

黄金（神性）

乳香（聖性）

没薬（死）

最高の贈り物、必要を満たすために用いられる

王にふさわしい、贈る側にもふさわしいささげもの

異邦人にとっても、イエス・キリストは唯一無二のメシア

ユダヤ人も異邦人も待ち望み、捜し求めて、信仰によって救い主と出会う

以後、その救いは取り去られることはない

イエス・キリストはきのうも今日も永遠に主であり救い主でいてくださる